

仏さまのはなし

響流

発行所
茨城東組事務局
茨城県常陸太田市
久米町20-1
正念寺内

◇阿吽の呼吸◇

無量寿寺 住職 片岡 順暁

私たちが使う言葉の中に「阿^{あうん}吽^{うん}の呼吸」があります。一般的には二人の息が合っている様子をいいますが、実は仏教からきた言葉で、二人の息ではなく、一人の息の中において「阿」と「吽」の呼吸があることを説いています。すなわち人生で初めて吸う息を「阿の呼吸」最後に吐く息を「吽の呼吸」というのです。

私達の肺は、お母さんの胎内にいたときは膨らみます前の風船と同じでピタッとしていました。誕生と同時に全身が空気に触れますと、自分で呼吸をし、口を大きく開いて「はあーっ」と空気を肺に吸い込みます。これを「阿の呼吸」と言います。呼吸が始まり繰り返すこと日本人の平均呼吸回数はおおよそ1億回ともいわれますが、最後の呼吸は「吽」と息を吐いて終わります。これを「吽の呼吸」といいます。

このように「阿」は始まりを「吽」は終わりをあらわすのですが、これを目に見える形にしたものが「阿吽の形」です。奈良・東大寺にある仁王像は左右一対、その口元をご覧いただきますと片方は口を大きく開き（阿形）、片方は口を頑^{かた}なにっぐんでいます（吽形）。双方



で「阿吽の形」となります。この他にも各地のお寺の参道の左右にある「阿吽の形」は、その間を通る私達が今まさに「阿」と「吽」の間、諸行無常の世界にいることを教えて下さっているのです。無量寿寺の本堂正面には唐獅子の彫刻がありますが、やはり「阿吽の形」となっており、そのお姿を拝する度に、呼吸に限らず全ての事象は「阿」で始まり「吽」で終わることを知らされます。

蓮如上人からのお手紙『御文章』「末代無智章」の中には、「ねてもさめてもいのちのあらんかぎりは称名念仏すべきものなり」と説かれています。「阿吽」である諸行無常のいのちを生かされていることに感謝し、報恩の思いからお念仏申す生活を送りたいものです。

合掌



お寺紹介

第 2 回

恵光寺

〒314-0113 茨城県神栖市横瀬1276-92



平成13年落慶法要



本 堂

恵光寺は、茨城東組二十ハヶ寺で一番若いお寺です。鹿島臨海工業地帯の中核である神栖市に平成二年四月、都市開教の鹿島布教所が開設され、吉崎友法住職が着任されました。住職の熱心な布教活動により十年後の平成十三年九月、新本堂が建立され正式に恵光寺が誕生しました。当時、連研の席で組長さんが「本願寺派寺院のない土地に新しい浄土真宗のお寺が誕生したのは、百年以上なかった

快挙だ」と驚かれ賞賛されたことは、今でも忘れません。恵光寺は大勢の熱心なご門徒のご懇志によって建立されたお寺です。ご門徒の多くは鹿島臨海工業の建設に全国の各工場から転勤されてきた方々で、恵光寺を心の拠り所としています。毎年「春・秋の彼岸法要」「永代経法要」「報恩講法要」等々では三十畳の本堂は満堂になり、座れない方々で玄関ホールまで埋まります。



報 恩 講 法 要

平成二十五年九月、住職が病に倒れ五十四歳の若さで往生されるとは、門徒にとって到底信じられない痛恨の極みでした。昨年九月に初代住職「釋友法」師の三回忌法要を営み、現在は坊守を中心に総代、門信徒こころを一つにして、住職なき後の恵光寺をこそ子息が住職に就かれるまでお守りしてゆく所存でございます。

お寺発足以来務めて下さった総代のほとんどが老齢になり、お浄土に往生の素懐を遂げられた方もいます。この度、新しい総代を六名選出しました。坊守の意向が反映しやすい体勢を作り、お寺の護持発展に全力で取り組んでいるところではあります。

「釋友法」師が往生されて以来、茨城東組の寺院ご住職、坊守様方にはご理解とご協力頂いており、坊守・総代一同心より厚く御礼申し上げます。

門徒推進員・宮田 優

合掌

はじめての仏事

第 2 回

作法のいろは

上宮寺 副住職 鷺元 明誠



常盆・常彼岸という言葉をお聞きになられた事はありませんか？

「お彼岸」は昼と夜が間半分の春分の日・秋分の日を挟み七日間。迷いの世界である「此岸（この岸）」と覚りの世界である「彼岸（かの岸）」、つまりは娑婆であるこの世界とお浄土の世界とを表現した言葉です。彼岸は到彼岸といい、仏と成る事・覚りを開く事に到るといふ意味があり、浄土真宗では私が仏となる教えを努めてお聴聞する縁として行われます。

また、お盆は七月十三日～十六日頃、もしくは八月十三日～十六日頃まで営まれます。

お盆の期間中は亡き方がそれぞれの家々に帰り、またあの世にもどる、という考え方をされていますが、浄土真宗では、そのような考え方をしません。亡き方はすでに阿弥陀様の願いの力によって、彼岸に行き生れ、残された私たちを救うために私とともにこの此岸に居て下さいます。起きているときも寝ているときも、常にこの私にかかりきりで、阿弥陀仏の願いに気づいてくれよと呼びかけて下さっている。そのことを改めてお盆を機縁として味あい、お彼岸を通して聞かせていただく。常に彼岸であり常にお盆。特別な事をするのではなく、普段から特別な思いで阿弥陀仏と向きあわせて頂きたいですね。

（お盆のお荘厳（おかざり））
次のようなものが置かれている場合があります。ですが、浄土真宗では用いる必要はありません。

○まこも……………病気を治し邪気を払うといわれています。

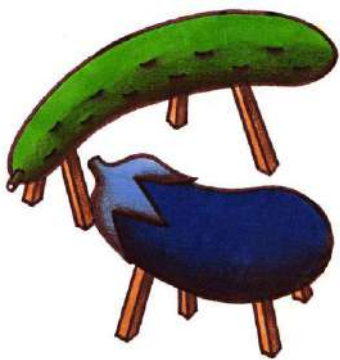
○牛馬……………よくナスとキュウリで作られています。故人が帰ってくるときの乗り物。

○ほおずき……………自然界の盆提灯とされています。

○そうめん……………故人との関係を細く長くするといわれています。

○お膳……………故人のご飯。
○盆棚……………精霊棚とも言います。

このほかにも地域、風習によって様々な盆飾りがありますが、何れにしても浄土真宗では用いる必要はありませんので、平常時のお荘厳でお盆をお迎えいたしましょう。



お知らせ

連続研修会のご案内

みなさんでともに浄土真宗を学んでみませんか？

連続研修会は単に浄土真宗のみ教えを教わる事が目的ではなく、浄土真宗のみ教えがあなた自身の生活に生きている必要不可欠なものであることを実感し、生きる意欲を引き出す研修会です。2年を1期とし、現在第14期。数百人のご門徒さんがこの研修を修了されております。15期は本年度よりスタート予定。興味のある方はお手次のお寺まで！

第15期連続研修会今後の予定

15期1回目の連続研修会は6月を予定としています。

申し込みの締め切りは5月の連休明けまで。お揃いでご参加頂きますようお願いしております。

中央教修に参加し、門徒推進員として

悲しみや苦しみ喜びの人生を多くの方々と、ともに歩んで下さい。

中央教修とは全国の各地域で行われる連続研修会を修了した方を対象に、御本山山西本願寺で行われる研修会の事です。3泊4日の日程で行われ、全国から参加される受講者、スタッフとも親しくなる事ができ、人生の視野が格段に広がります。仏法を聞き、法友との話し合いによってこれまで遠い世界の事と捉えていたみ教えが、いのちの大切さを説き、病氣や死の恐怖を乗り越え、自分の生活が光り輝くものに変えてくれる尊い教えであったという体験きっとできると思います。

法とともに朋とともに、これからの人生歩んでみませんか？やり直す事の出来ない人生を、見直してみませんか？

回数	期 日	定 員
第247回	2016(平成28)年 5月27日(金)～30日(月)	60名
第248回	2016(平成28)年 6月24日(金)～27日(月)	
第249回	2016(平成28)年 7月15日(金)～18日(月)	
第250回	2016(平成28)年 9月 2日(金)～ 5日(月)	
第251回	2016(平成28)年12月 2日(金)～ 5日(月)	
第252回	2017(平成29)年 1月27日(金)～30日(月)	
第253回	2017(平成29)年 2月10日(金)～13日(月)	

※茨城東組では第249回を希望し参加する予定です。他の日程を希望される方はお寺にお問い合わせ下さい。

また、随時お申込みお待ちしております。

編集長Q&A

なぜ『響流』という組報なのかとご質問を多く頂きました。

阿弥陀仏の願いの力は、お正信偈に様々な光で例えられておりますが、その中のひとつに「無礙光」と表わされております。無礙光とは何ものにも妨げられる事の無い光。殺伐とした世の中に、普く隅々まで行き渡る阿弥陀仏のみ教え。響流とはその阿弥陀仏の願いの力が、響き渡る。行き渡る。そのお姿を味わい付けさせて頂きました。(増田 廣樹)